

# 推薦入学総合選考における「グループワークの事例」と「評価の基準」

## I グループワークの事例

インプット(理解)とアウトプット(表現)を意識した課題を出題します。

たとえば、単なるグループディスカッションではなく、

1. 論文を読ませる (インプット)
2. グループディスカッション
3. 新聞に意見広告を出す (アウトプット)

といったように、きちんと目標を定め、タイムキープを行い、協働性を観察します。

できる限り、手作業や体を動かす要素を入れて、実際に共同作業ができるかどうかを観察します。

グループワークは6名から8名を1グループで想定しています。

想定される課題(実際の出題とは異なります)

- ・レゴで巨大な艦船を作る。
- ・昨今、小学校での組み体操の危険性が指摘されているが、実際に組み体操をやってみて、その危険度や対策を協議する。
- ・小説の一部分を切り取って、小学生向けの紙芝居を作る。
- ・AKBと、ももいろクローバーZのダンスを実際に踊ってみて、それぞれのビジネスモデルの違いを討議し、新しいアイドルのプロモーションを考える。
- ・四国の観光プロモーションビデオのシナリオを作る。

## II 評価の基準

### 1) グループワーク

グループワークの過程を評価するものであり、アウトプットは評価の対象となりません。

たとえば、演劇を作るという課題が出たとしても、演技のうまい生徒が評価されるわけではありません。

想定される評価基準は以下の通りです(課題によって、毎年、評価基準は変わります)。

- ・自分の主張を論理的、具体的に説明できたか。
  - ・ユニークな発想があったか。
  - ・他者の意見に耳を傾けられたか。
  - ・建設的、発展的な議論の進め方に寄与できたか。
  - ・タイムキープを意識し、議論をまとめることに貢献したか。
  - ・地道な作業をいとわずに、チーム全体に対して献身的な役割を果たせたか。
- 各項目を四段階評価で採点し、その総合点と、インタビューでの採点を基準に合否を決定します。

### 2) インタビュー

グループワークのあとにインタビューを行います。

従来型の面接は、紋切り型の質疑に終始し、また本音を引き出そうとすると圧迫面接に陥る危険をはらんでいます。

この新試験におけるインタビューは、先に行われたグループワークについての感想や反省から出発して、受験生の本音や潜在能力を丁寧に見ていくことを目的としています。想定される質問は、以下のようなものです。

- ・グループワークにおいて、印象に残った他者の発言。
- ・あと30分あったら、どんなことができたか。
- ・どのようなところが難しいと感じたか。